



2021/10/06 公開

ごうちゃんねる (GO-CHANNEL) ◆終末預言シリーズ (前兆編) ◆
#5 「20 世紀最大の奇跡 イスラエルの再建国」

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏



お元気ですか。高原剛一郎です。このシリーズでは終末預言の紹介をしております。
聖書は信頼に値する神のことばである、ということを知っていただくためなんです。
聖書が語っている信仰は、いわゆる妄信・狂信・迷信とは全く別物なんです。
何が違うかという、信頼に足る根拠があって信じる信仰。これが聖書が言っている信仰なんです。
信頼に足る根拠が無いのに信じるのは妄信で、むしろ危険です。しかし、信頼に足る十分な根拠があることを信じないというのは、もしかしたら自分の人生に大きな損失を招くかもしれません。

さて、“患難時代の前には 10 個の前兆がある”と今まで申し上げて来ました。
今日は 3 番目をご紹介します。それはイスラエル国家の再建です。ユダヤ人の民族国家が再び世の終わりに出現する、という預言です。
ユダヤ人の独立国家が再び建てられるということは、患難時代の前にどうしても起こらなければならないことなんです。“患難時代は、反キリストと言われている人物とイスラエルが 7 年契約を結ぶことによってスタートする”と預言されているからです。

反キリストがイスラエルと国際条約を結ぶ、その日が患難時代の初日です。
しかし、条約の統治能力を持っている独立国家が存在しないと、国際条約を結ぶことは出来ません。
イスラエルと国際条約を結ぶということは、イスラエルが独立国家として その時に存在していなければならない。ですから、患難時代の前に必ず起こらなければならない 3 番目のしるし—それは、ユダヤ人国家が再建されるということなんです。

エゼキエル書 36 章

神である主のことば。わたしはあなたがたを諸国の間から導き出し、すべての国々から集め、あなたがたの地に連れて行く。

これは今から 2600 年前の預言の言葉です。すべての国々から (ユダヤ人を) 集める。
ということは、その前にユダヤ人が全ての国々に散らされていることが前提になっている預言の言葉なんです。ユダヤ人は一度全世界に散らされている。
そのユダヤ人が集められて、あなたがたの地に連れて行く。あなたがたの先祖たちが国を持っていた地、現在パレスチナと呼ばれている地に連れて行き、そこで国を持つのだという預言です。

この預言が 1948 年 5 月 14 日に実現しました。これは 20 世紀最大の奇跡です。
そう言ったのは私ではありません。イギリスが生んだ偉大な歴史学者アーノルド・トインビーが言っているのです。「イスラエルの建国は奇跡だ！」なぜ奇跡と言えるのでしょうか？
色々ありますが、今日は 3 つ紹介します。

1) ユダヤ人国家ができる前提として、ユダヤ人が消滅せずに、ユダヤ人として存在し続けているという奇跡が必要です。ユダヤ人は AD70 年 ローマによって国を滅ぼされ、世界中に散らされてしまいました。それから 1948 年 5 月に国を再建するまでの 1878 年間、国のない民族として全世界をさまよっていた

のです。約 1900 年間も世界中にバラバラに住んでいたら、普通は行った先の文化や民族と同化してしまうんじゃないですか？ 行った先で生き延びるには、そこで必要とされる人材にならなければなりません。当然その国々の必要を満たすために、信頼されるために、なくてはならない人材になるために、合わせていかなければならないはず。しかし、最も核となっている民族の意識/アイデンティティを、ユダヤ人は 1900 年間保持し続けたのです。

数年前、私はあるクリスチャン女性と再会しました。ご主人の仕事の都合で 8 年間アメリカに行っていて帰って来られたんです。再会してビックリしました。行く前と人柄が全く変わっていた。意思表示をハッキリする女性に変わってました。日本にいる時はずいぶん引っ込み思案というか、後ろに下がるのが癖になっているような感じの方だったんですが、イエス/ノーをハッキリ言いますね。そして日本にいる時は「私、出来ます」とは中々言わなかったのですが、自信満々というか。

「何があったんですか？」日本では 99%出来る見込みがある時は「出来ます」と言えたけど、それ以下なら言えない。でもアメリカでは、右の住人も左の近所の人たちも、50%くらい出来ると思ったら「出来る！」と言って、引き受けた後でベストを尽くして、何とか出来るように頑張る。頑張っても出来なくてもカラッとして終わってる。そんな人たちに囲まれているうちに、出来なくても別にいいじゃないみたいな。ずいぶん前向きになった。

もう 1 つ変わったことは、洗濯物をベランダに干すことをやめた。彼女がいた州では、それが禁じられていたそうです。全部乾燥機でやる。日本に帰って来ているのに、そんな習慣までもアメリカナイズされて、ずいぶん感化されたと言っていました。たった 8 年で。

1900 年間 帰る国を失い、言葉を失い、世界中に散らされ、その国にずっと生活し、その国の人と結婚を繰り返して行ったら、普通はその子孫たちのアイデンティティは、現地の人たちと完全に同化してしまうのではありませんか？ ユダヤ人であり続けることが出来なくなるんじゃないですか？
ところが、ユダヤ人たちは 1900 年間ユダヤ人であり続けたのです。これが第 1 の奇跡です。

2) イスラエルが建国・独立した 1948 年 5 月は第二次世界大戦からわずか 3 年しか経ってないのです。ナチス・ドイツが滅びるのが 1945 年 5 月ですよ。第二次世界大戦の間、ナチス・ドイツはユダヤ人迫害をずっとやってたわけ。段階的にヨーロッパを制圧したナチス・ドイツは自分たちが支配した全領域において、ユダヤ人大弾圧を徹底してやりました。

ホロコースト/ユダヤ人全滅計画。これによって、600 万人ものユダヤ人が虐殺されたと言われています。全ユダヤ人人口の 1/3。おびただしい数の人間が短期間に大殺害されたんですね。そのホロコーストの生き残りたちが、なんと 3 年後に あの中東のど真ん中イスラエルに国を造るなんて、まさに奇跡だと思いませんか？ これが第 2 の奇跡ですね。

3) イスラエルが国連総会の圧倒的多数を受けて独立国家として承認された、ということです。ホロコーストからわずか 3 年で国を造ったと言いましたが、正確に言うと、ホロコーストの生き残りの人たちが国に帰って来て 3 年で国を造ったというわけではありません。

第二次世界大戦が始まる 60 年前からシオニズム運動が、特にヨーロッパで起こりました。シオニズム運動は“シオンに帰ってユダヤ人国家を造ろう”という運動です。シオンは、狭い意味ではエルサレムのこと。広い意味では、かつてユダヤ人国家があった全領域・約束の地と言われている領域のことです。

“聖書に書いてある、アブラハムに与えられているその土地にユダヤ人は帰ろう！先祖の地・約束の地に帰って、ユダヤ人の国を造ろう！”これがシオニズム運動です。
彼らはヨーロッパ中でユダヤ人が大迫害を受けている間、戦争が始まるはるか前に、パレスチナに帰って来てたんです。そして、そこでユダヤ人共同体を造っていました。

この共同体には行政機関・立法機関・司法機関・警察組織・自衛のための軍隊・病院施設・教育システム…、そういったものが全部完備されていました。すなわち国家的な承認は受けていないけれど、国家としての内実を既に持っていたのです。しかし、世界から国家としては認められていなかったんですね。聖書の預言は彼らが国家になるということなので、共同体を持っているというだけではまだ実現していないわけです。

しかし、国家の内実を持っているからといって、全ての民族が国家として認められるのでしょうか？そんなことはないですよ。皆さんは中東にクルド人という人たちがいるのをご存知だと思います。3000万人以上いるんですよ。その自治区は国家同然で、自分たちの組織・政治・議会・司法を持っていますよ。だけど、未だに国を持つことが出来ないんですね。
国を持つためには、その時代の大国の後押し無しでは、独立国家として世界にデビュー・承認されることは出来ないんです。このことがイスラエル建国を非常に難しくする条件となるはずだったんですね。

ユダヤ人共同体をユダヤ人国家として認めるかどうかを計ったのが、1947年11月、パレスチナ分割決議を討議する国連総会でした。そこで、圧倒的多数でイスラエル国家の法的根拠が認められたわけですが、これね、奇跡なんですよ！

共同体が国家として認められるためにはその時代の後押しが必要ですが、1947年時代、世界の大国って2つあったんです。アメリカとソ連。そしてこの当時、既に米ソ対立時代が始まっていたのです。米ソ対立時代というのは結局、国連総会でアメリカが賛成することにソ連が反対。ソ連が賛成することにはアメリカが反対。米ソ冷戦時代が既に始まっているわけですよ。
こういう状況の中で、2つの大国が同時にイスラエル承認に動いてくれないと、イスラエルの共同体があったとしても国家に昇格できない。これが国際常識です。ところが実現したんです。

アメリカを見て行くと、1947年11月、アメリカは、パレスチナを分割してユダヤ人国家のための土地を与えることに賛成票を投じました。この時のアメリカ大統領はトルーマン大統領です。実は、トルーマンという人物は聖書預言に精通していて、その預言の実現にアメリカが寄与することに非常に意義を感じている大統領で、イスラエル建国承認に賛成票を投じたんです。

トルーマンの前の大統領は誰でしたか？ ルーズベルトですよ。
ルーズベルト大統領のイスラエルに対する考え方は大反対です。イスラエル建国は大反対！
ユダヤ人国家の出現を心配しているサウジアラビアの初代国王イブン・サウード王に向かって、「イスラエル建国はアメリカが阻止しますから大丈夫です。賛成しないから安心してください」みたいなことを書簡で送っているんです。

ところが、そんな約束の後しばらくして、彼は高血圧で突然死してしまうんですね。それで、当時副大統領のトルーマンが格上げで大統領になり、1948年の大統領選挙で再選して大統領になり、この一大事、でっかい仕事をやったんです。

もしルーズベルトが生きてたら、自分の考えに近い人物を次の大統領として推薦したでしょう。

トルーマンとルーズベルトの考えは違うんです。だから、ルーズベルトが死んでいなかったら、トルーマンは大統領になっていないでしょう。ということは、アメリカがイスラエル建国に賛成することはなかった。そしたら、イスラエル国家昇格はなかったんですね。

さて不思議なのは、ソ連のスターリンも 1947 年 11 月の分割決議案に賛成し、事実上イスラエルを承認したんです。イスラエルを承認するということは、アラブの反発を買うということなんですよ。ソ連は中東に社会主義革命を輸出したいと考えていました。そんな魂胆を持っているソ連としては、わざわざイスラエルを認めてアラブの反発を食らって、警戒心を抱かせるというのは得策じゃないです。そんな事はしない方が賢いです。にもかかわらず、なぜ彼はイスラエル承認に投票する方に行ったんでしょうか？

実はイスラエルのリーダーの多くはロシア出身なんです。第二次世界大戦後イスラエル建国までの間に、ユダヤ人は移民としてパレスチナの地に移住しますが、その波が 5 回、大きな集団移民が 5 回起こっているんです。その内の 3 回はロシアからなんです。つまり、ロシアは世界一 反ユダヤの国なんです。それで、「こんなところ居たら、もう全滅するぜ」とロシアからパレスチナに移住する人たちが出て来たんです。

ロシアから帰って来るユダヤ人は、おしなべて社会主義の影響を受けていました。建国したイスラエルを限りなく社会主義の国に造ろうという理想に燃えてやって来た。だから、初代大統領ベングリオンの政策を見ると社会主義的で、彼の政党は労働党という名前です。

社会主義の考え方を持っているロシア出身のユダヤ人たちが新しく出来るイスラエルのリーダーである。このことをスターリンはこう考えたようです。「新しく誕生したイスラエルは社会主義に好意的な国になるかもしれない。もしかしたら、ソ連に協力的な国になるかもしれない。そうなれば、ソ連の中東進出に利用できるかもしれないぞ。」

それで、米ソが両方とも分割決議案に賛成して、それぞれの影響下の国々に賛成に回るように圧力を掛けたんです。アメリカは自由主義陣営の国々に賛成するよう圧力を掛け、ソ連は社会主義の東ヨーロッパの国々に「おまえら、イスラエル承認に賛成するように！」と圧力を掛け、結果、圧倒的多数で分割決議案が通った。イスラエルは国連で晴れて国家承認されたんですね。

イスラエル建国は、このように奇跡・奇跡が重なり合って初めて実現したことです。なので“20 世紀最大の奇跡”と人の目には見えるのですが、しかし聖書は、イスラエルが必ず再建されることを繰り返し繰り返し預言して来ました。そしてそれは、20 世紀半ばに実現したのです。私たちは今、成るべくして成った、そういう時代に生きているんですね。

患難時代の前に起こる 3 つが既に実現しました。次回 4 つ目をご紹介します。ますます聖書預言の佳境に入って参ります。よろしければ、また続きをご覧ください。そして もしよろしければ、チャンネル登録をお願いします。ではまた、このチャンネルでお目に掛かりたいと思います。それまで皆さん、お元気でいらしてください。さよなら！！

☆使用した聖書は「聖書 新改訳 2017」です。